

■巻頭文

BCP(事業継続計画)訓練を通じて

東日本大震災以降に BCP という言葉を聞くようになった。企業の災害リスクに対する対応能力の強化と地域復旧復興への地域貢献能力の向上を目的に企業が宣言し行動している事と日常において企業は常に訓練を重ね即応力の維持に努めている事がよく分かった。日本のよき習慣である助け合いの心が個人から組織を通じて日本全体に広がりつつあるように思えて嬉しく思いながら読ませて貰いました。

日本の国際収支赤字要因の 1 つに石炭、石油、LNG 等の電力発電原料の輸入があります。大きなマイナス要因である。原子力発電は省資源の日本には必要であると考えている 1 人であるが、原子力発電に向けてはより一層のアクシデントマネジメント対策の充実と、且つ、日頃の訓練・演習を反復行い即応力の向上をないがしろにしない常識を積み重ねる事が大切であると痛感している。岩田さん曰く「訓練を通じて BCP の策定、運用には、知識、経験、技術力、さらには高い見識と倫理観が必要」という事には原子力発電についても全く同じであると思いました。日本人には高い技術力・見識・倫理観が備わっています。技術士の皆さん、「世のため人のため」に岩田さんの背中を見ながら行動して行きましょう！！ (S. H)

■報告

リージョナルステート研究委員会
平成 26 年度 第 2 回研修会

占冠村から南幌町、当別町ととても精力的な研修会に感心しました。北海道では「一村一エネ事業」とか、「一村一炭素おとし事業」とかあるのですね。勉強になりました。地方に活力を与えようというこれらの事業はとても大切だと思います。さらに、「地

方創生」が叫ばれる中、リージョナルステート研究会の活動に大いに期待しています。しかし、今日(10月22日)の道新の朝刊では空知地方の厳しい現状に特集が組まれていました。過去にも「地方再生」とか「ふるさと創生」とか似たような政策が掲げられましたが、高齢化や過疎化の波は一向にとまりません。今度こそ実のある成果に期待します。

ちなみに「しめかっぱ」とネットで調べたら変換できません。そんなに「しめかっぱ」って知られていないのかと思い、「一村一エネ事業」を調べたら占冠のことも出ていました。そのページに飛ぶとひらがなで「しむかっぱ」とあるではありませんか。地方の心配をするなら名前ぐらいちゃんと覚えておけ。ああ～はずかしい。

(いつものおせっかい男 MS)

北海道スタンダード研究委員会 第 8 回勉強会
歴史に学び、北海道の未来を考える

北海道の歴史を考えると、先住民族であるアイヌの存在を避けて通ることは出来ないが、日本の歴史の中ではどちらかというと曖昧のまま扱われているためあって、その知識に疎いのが現状である。今後人類学、考古学の観点からも学問領域として更に研究していく必要がある。

フランスのブザンソン美術館でアイヌ指導者の肖像画「夷酋列像」が発見された。何故そこにあつたのかは謎であるが、これらの画を見るとその迫力に思わず目を奪われるような作品である。

それにしても講師の石塚教授が「夷酋列像」を研究するきっかけとなったのが、松前高校に勤務されたとき、この画を描いた江戸時代の画家の蠣崎波響が住んでいたところに公宅があつたというのも面白い。

松前高校では「夢と文化を創造する学校」をキーワードに歴史を学ぶ「松前学」を経営方針に据えた。

松前は江戸時代の松前藩があり歴史的にも城下町として重みがあるまちである。そこで国際教育ということでフランスのまちと交流を持った点も注目に値する。

音威子府では「夢を語る学校づくり」「想像力を育成し人間力を高める」を経営方針として生徒を育てた結果、夢を未来につなげることで生徒も村民も自信と誇りを持つように地域が変わっていったことは素晴らしいと思う。

この勉強会は、歴史に学び北海道の未来を考える良い機会になったのではないかと。(K. T)

■ Air Mail to Hokkaido

ロシアのほんの一部紹介

ロシアのサンクトペテルブルグ放浪記ではなく、仕事で行かれた見聞録でした。美しい町並みが紹介されています。また、筆者の土木研究者とした立場からの見聞調査として、道路整備や雨水排水、緑化、各種の工事現場の様子などが紹介され、大変興味深く読ませていただきました。最後にロシアの地元の方との交流も紹介され、旅慣れされた海外滞在に感心しました。これからも、海外の情報発信をお願いします。(Y. K 血液 AB 型)

■私のプロジェクト X

板垣恒夫技術士

今回の板垣さんの技術者としての足跡を読ませていただき、森林分野の技術者として板垣さんの功績と人柄を垣間見させていただき、その素晴らしさ、一技術者として、ご自身の分野に真摯に取り組む姿勢、また何より森をこよなく愛し、木を大切にすることをもち、そして人との繋がりを大事にしてこられた人生に「さすが板垣さんだな」と感心させられ一気に読ませていただきました。

私の板垣さんとのお付き合いは、私が平成15年から活動させていただいた技術士会の「地域産業研究会 地域活性化分科会(当時)」での出会いからでした。

当時、分科会では、北越さん置谷さんを中心として色々な分野(海、山、農業、森林環境の各分野)の技術士の方々と寿都町との交流を主体とした活動に

関わったことがきっかけでした。板垣さんは森林(特にブナ林の第一人者)として、寿都の子供たちや、森や木にまったくの素人である私にブナの持つ価値や大事さを懇切丁寧に判りやすく解説をして頂き、また森を大切にすることの意義を教えてくださいました。

板垣さんとの活動は、寿都町での北限のブナ林や森と川と海のつながりの大切さ、島牧村でのミズナラの巨木や色々な広葉樹の混合林見学、そして黒松内町でのブナ林(添別ブナ林)の探索と森林体験学習など多くのことをご一緒させていただきました。

そして、板垣さんとの交際で最も楽しいひとは、板垣さんが地域産業研究会の副会長で私が幹事長をしていた時に、幹事会の後で柴田さんを始め参加幹事会メンバーと反省会と称する「飲み会」で色々な体験談(その一端が今回のプロジェクト Xにも紹介されています)やブナの話、寿都での話で大いに盛り上がったことです。最後に板垣さんがこれからも益々お元気でご活躍されることをご祈念いたします。(J. I)

■活動レポート

北方海域技術研究委員会 平成26年講演会報告

北方海域技術研究会平成26年度講演会の報告を読んで 海洋研究開発機構の木元克典氏の講演「地球温暖化がもたらす海洋生態系へのインパクト」からは、大気中の二酸化炭素増加が海洋の温度上昇だけではなく海水の酸性化をもたらししていることを理解しました。生態系の相互連関は複雑で、単純なパターンで捉えてはならないこと、二酸化炭素のさらなる増加で二次的な影響・現象も見いだされるということも視野にいれなければならないと感じました。

水産庁の石井馨氏の講演「漁業地域の防災を取り巻く状況」では漁港の災害復旧の状況や今後に向けた対策など幅広いテーマについて紹介されたところ、海岸法の改正について興味を持ちました。漁業地域から見て「減災機能を有する樹林等を海岸保全施設に位置づける」は確かな1歩ながら、森林や河川を含めた総合的な捉え方をするにはまだまだ道は遠いのかなと感じた次第です。(T. O)